

第3回 大山崎町地域創生有識者会議

- 日 時 平成27年10月20日(火) 14:30～
- 場 所 大山崎町役場3階中会議室
- 出席者 ○有賀正晃委員、上垣健一委員、奥野雅弘委員、蔦谷直重委員、鳥居 健委員、
中島大介委員、◎深尾昌峰委員、福田利雄委員、藤井恵美子委員、
藤澤正典委員、古川哲也委員、南出高志委員 以上12名
- (注) ◎は座長、○は座長代理
-

1. 開会
 2. 議事
 - (1) 人口ビジョン(素案)について
 - (2) 総合戦略(素案)について
 - (3) その他
 3. 閉会
-

1. 開会

【事務局】

定刻より少々早いですが皆様にお揃いいただきましたので、只今から第3回大山崎町地域創生有識者会議を始めさせていただきます。

まず開会にあたりまして、10月1日付で新たに委員にご就任をいただきました委員のご紹介をさせていただきます。お手元資料の委員名簿のお二人目です。同委員におかれましては、前委員のご後任としてご就任いただいたところですが、本日急遽ご欠席ということとご連絡をいただいておりますので、ご紹介のみとさせていただきます。

また、本日は●委員様におかれましても、欠席ということとご連絡を頂戴しております。更に、●委員におかれましては少し遅れて参られるという連絡をいただいておりますので、あわせてご承知の方をよろしくお願い致します。

それでは開会にあたりまして深尾座長から一言、ご挨拶をよろしくお願い致します。

【座長】

皆さん、こんにちは。第3回目の会議となりました。前回の議論を踏まえて素案を本日用意していただいておりますので、ご忌憚のないご意見を是非どうぞよろしくお願い致します。

【事務局】

ありがとうございました。

それでは、本日の会議の出席の状況ですが、先ほど申し上げました通り今現在 11 名の委員にご出席をいただいております。

次に傍聴者の希望ですが、傍聴希望者はありません。

これより議事に入りますので、深尾座長よろしくお願ひ致します。

【座長】

本日も早速、議事のほうに入りたいと思います。早速であります。本日は人口ビジョンと総合戦略の素案について、それぞれご検討いただくということになっております。

それでは、資料のご説明からお願いしたいと思います。まずは人口ビジョン素案について事務局から説明をお願い致します。

2. 議事

(1) 人口ビジョン（素案）について

【事務局】

①大山崎町人口ビジョン（素案）の追加、整理した内容について説明（資料1）

【座長】

ありがとうございます。確認ですが、まだ出ていない調査結果等を踏まえて、後ろのスケジュールがどのようになっているか確認させてもらってもいいですか。

【事務局】

11 月の下旬にもう一度、本会議を実施します。その時点で観光調査関係の資料が一定整理できますので、次回の会議では皆様方に最終的な統計結果も含めてお示しをする予定をしております。その上で、ほぼ完成形のご議論をまとめさせていただきます。その後、12 月には議会も控えておりますので、議会に報告する予定をしております。

また現在、皆様方にお知らせしていませんが、最終的な完成のまとめということで、年明けにもう一度、お集まりいただく予定をしております。

【座長】

ありがとうございます。もう少し議論をする時間はあるということですが、現時点のところ、今日ご説明していただいたところを中心に、ご意見やご質問があれば是非よろしくお願ひ致します。いかがでしょうか。

【委員】

24 ページのバス路線のところ、1日の平均乗降客数が大体1,600人弱ということですが、これは阪急バスの採算というのはどうなのですか。採算ベースにのっているのでしょうか。

【事務局】

お手持ちの資料では、平成22年度のデータとなっていますが、こちらにつきましては阪急バスも毎年データを取っておられるというわけではなく、4年、5年ぐらいのスパンのデータです。とりわけデータが平成22年度ということになりますので、現在の西山天王山駅が出来までの状況です。本町を走っているバスの中に、JR長岡京を出発して阪急長岡天神を通った後、本町の円明寺が丘団地を通るルートがございます。当時は10分単位ぐらいでの時刻表がありましたので、西乙訓高校の生徒であるとか、円明寺が丘団地にお住まいの方の通学・通勤等に使われているということが主な要因であろうかと思っております。このようなことから、採算ベースにのっているように我々としては見させていただいております。

現在は、西山天王山駅が出来たことでの影響はあると思いますが、採算を取りながら存続をさせていただいているという状況です。

【座長】

ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

【委員】

46 ページの課題1ですが、ここの文章からいくと、町自体の活性化の中心は観光であるというような説明ですが、町の観光資源の中心はこれでいいですが、例えば近隣の自治体との差別化という面でみたらいかがでしょうか。

【事務局】

現在、観光につきましては小さな町域単独ではなかなか厳しいです。観光というのは訪れていただく方の視点からすれば、乙訓なら乙訓の地域、また隣の島本町にはサントリーウィスキー山崎蒸留所などがありますので、島本町と連携して観光業界の皆様方に集まっただき、共同でプレゼンをさせていただいたりして観光客誘致の推進を図っております。本町としましては、お隣の島本町ぐらいまで、広域的なネットワークをつくりながら観光資源の充実を図っていくのも一つかと思っております。

【委員】

ちょうど島本町と大山崎町の境に住んでおり、駅を降りた方の流れを見ていると「天

下分け目の天王山のまち「大山崎町」という立て看板が府境にできていますが、駅を降りた方の足は大阪府の方へ流れて行っています。大山崎町の駅前を見るとすぐ右側へ行ってしまっ、せっかく待庵とかあっても大山崎町歴史資料館に行ってそれを深めるとか、堺市とかの連携とか言いながらもそれを生かすような工夫がないというのが非常に残念だと思っています。

観光客のアンケートを見せてもらった時に、大山崎町だけの寺院とか山荘とかスポットがあっ、どこへ行かれますかという取り方だったので、今言われるように島本町とかに流れている分がかなりありますので、そういうところを含めた形で交流人口を拡大していく視点が必要なのかなと思います。

それから西山天王山駅ができたことで、長岡京市は北部とも繋がっています。先日、観光物産展をやっていましたが、ちょっと上乘りするだけではなく、もっと有効的にあそこを使わせていただいて、京都府北部との繋がりとかを考えていく。

近々にお聞きしているのが、大山崎町の駅前付近に、トイレがないということです。そういうきめ細かなことも観光誘致のために必要になってきますし、駅前におりましても大山崎町が昔から持っている街並みなどを意識的に作りだしていかないと、どんどん自分流に改築が始まっていて、大山崎の良さが消えて行きつつある。創り出すことよりも守ることの難しさを考えております。

前回までの皆様のお話を聞いていますと、濃淡をつけるとか、活性化に具体を出すとか、そういう意見がすごく出ていました。まとめられたものを見てみますと、どこでも課題になっていることが説明され、こうしなければならぬというような説明になってしまっている。せっかくですので、大山崎町独自の位置付けで、乙訓という位置付けの中で、町を守って、一番狭い地域の中で目指す将来とかを付けて、もっと具体性を持たせた形の方向性を出していただけたらと思います。

また、子どもたちの子育てとかについては、あとで意見を述べさせていただきたいと思っています。

【座長】

ありがとうございました。非常に大事な視点です。特に課題1のところでは広域でという話と、データの取り方などもどういう動きがなされているかということを見ると広域連携みたいなことが見えてくるということ、トータルでもう少し全体をブランディングするとか、守るといふことの難しさもおっしゃっていただきましたが、あとは濃淡の付け方は確かにそうだなと思います。

特に46ページのところでいくと、課題2と課題4はこういう形でしか仕様がなないかもしれませんが、課題1と課題3のところはもう少し独自のことが書けるところでもありますので、今おっしゃっていただいた観光のところも、自分達のある資源というものについての記述もあってもいいでしょうし、課題3のところでは、もう少し「大山崎町ぐらし」とい

うことを押し出していくのであれば、この間言われてきた子育ての支援が非常に厚くて、子どもを育てるのには、ばっちりだということが今も言われていることを更に引き伸ばしていくというPR的にも使えると思います。そこら辺のところを濃淡ということ言えばおっしゃる通りだと思います。他、いかがでしょうか。

【委員】

46 ページの課題1で、交流人口を拡大し、定住や賑わいに結びつけ、まちの活力の回復・向上させるということですが、回復というのが気になります。ある意味大山崎町は沈滞してきていて、それを回復して向上させるということになりますが、そこまで大山崎町は沈滞しているのかというのが気になりました。

総合戦略ですべて回復・向上となっていますが、更に向上させるというのはわかりますが、回復というのは何か根拠があって、数値的に相当落ち込んできているので、それを上げるというようなものがあるのか、根拠があってこの言葉に反映されているのか。そこまで回復という言葉を使わなくてもいいのかなと思います。

【事務局】

実はこの回復という言葉に込められたものの中には、委員さんからのご意見をいただいたことや、本町の人口の状況を見ますと、昭和61年の人口1万6,000人をピークとして、そこから減少傾向になっている状況が続いています。特に小学校が2校ございますが、当時は両小学校ともほぼ900人前後の児童がおり、大山崎小学校では1,000人に近い子どもさんがおられました。一方第二小学校も当時は800人を超すような子どもさんがいましたが、今や300人くらいということで、運動会などをされますとクラス単位の盛り上がりが当時に比べると淋しい思いもします。そんな中ではもう一度回復をさせたいという思いを含めまして、ここに入れさせていただいているものです。

【座長】

回復という言葉は非常に大事なところかもしれません。今おっしゃっていただいたような認識を共有するのか、それともそういうものを古き良き時代の話でそういう回復を目指すのかということもあると思います。もしくは人口ではかる考え方はやめようということもあるかもしれません。人口の問題が大きいですが、それは日本全体の人口減少や移動の問題である程度共通の悩みだとすると、ここであえて回復という言葉を使うのかどうかということだと思います。

ここら辺で皆さん方のご意見があれば。今、事務局がおっしゃっていただいたことも一つの解釈としては間違いではないですし、正解があるわけではないので、少し皆さん方のご意見を伺えればと思います。いかがですか。

【委員】

私も意見を求められた時に回復という言葉は使ったのですが、それは人口のところで使ったつもりはなくて、総合戦略のところで回復、成長というのを使わせていただきました。数字的なことはあまり触れていませんが、やはり、都市の活力というのは相対的なものだと思いますので、隣接市町村なんかを見ながら、大山崎町の活力というのはやはり劣勢になってきているのではという認識はずっと持っています。

昭和 30 年代から 50 年代にかけて急成長して、その後はほぼ横ばいで、なんとか維持している状態に移行しています。今日、財政の説明もありましたが、最近は大体 50 数億の財政規模で、しかも経常比率が 96%です。そうすると政策的にも施策的にもあまり成長発展に繋がるような開発的な政策がとれなくて、ほとんどメンテナンス型に終始しており、新しい芽を生み出していくようなところになかなか手が付いていない。

一方で、生活の面で安心とか安全とか健康とか、そちらのほうは直接比較したわけではありませんが比較的手厚く推移していっているように思います。ここで求められているのは人口問題ですが、基本的には大山崎町の都市活力を回復してそれが人口増に繋がるような方向に認識したほうがいいのではという思いがあり、私は回復と成長という言葉を使わせてもらいました。

人口のところで回復を使うのはいいかどうかはわかりません。総合戦略のところではむしろ積極的に入れるべきではないかと思っております。

【座長】

ありがとうございます。その他、皆さんいかがですか。

【委員】

昭和 48 年に第二大山崎小学校ができた時に、大山崎小学校に勤めさせていただきました。当時児童数としては上り坂でしたが、今、教育委員として大山崎町の学校を回らせてもらった時に、非常に有利なところがあります。乙訓には公立の幼稚園が 1 校もありません。保育所で育った子、私立の幼稚園で育った子、そういう子たちが公立の小学校へ入ってくる。そういった中で乙訓の二市と比べて決定的に違うところは 2 つの小学校、1 つの中学校を逆手にとったら、非常にきめ細かな教育が出来ているところがあります。

第二大山崎小学校の授業を見せてもらいましたが、本当にきれいな教室に子どもたちがいます。今、学級定員が 40 名だと思いますが、色んな形で補助をとって 2 クラスに分けていますので、1 クラスが 20 人という規模で授業をされている。かたや大山崎小学校は 3 クラスあっても 1 クラスの人数は多いですが、その中でみると、学校教育に特色をつければ、非常に行きわたることもありますし、1 人ずつに対しても子どもたちへの学力の付け方とか、目の届き方とか、過疎地ではないので、2 つの学校は減らないということがわかります。学校には集団性というのが大事ですので、集団を組織できる数は確保できるということか

ら、2つの小学校、1つの中学校、これをしっかり育て上げていく、そういうことを特色づけていい教育をしているということがわかれば、ファミリー層が居続けてくれる、評判を聞いて入ってきてくれる、小学校就学前の子たちについては、待機児童ゼロです。そういうものを含めて連携をうまくしてだけでなく、より特化した教育政策をとることが可能です。

ただ知恵はいりますが、そののちろを含めて今は数だけではなくて、活気もないかもしれないませんが、よく考えて最後に書いてある生きる力をつくる、自分で考えて解決できる力をつくる、そこまで見守っていきけるそういう環境が整っていると思います。ぜひ、そういう意味を込めた特色というのを出していただけたらと思います。

【座長】

今みたいな捉え方をすると、中山間地域での子どもの複式学級なんかだと、なかなか子どもの集団性が出ないということで、それが嫌でどんどん人が少なくなっていく負のスパイラルがあります。そういう目で見ると適正な規模で適度な競争もあって、だけども細かいようなどころを一つの売りにしていくことはあるでしょうし、現実的にそういう教育が行われているとすると、その辺をきちんと一つの財産として、特色として打ち出すということはあると思います。

【委員】

大山崎町の教育環境をお聞きすると、どこに住むかを選択する際のポイントになるのではと思います。私自身、元々大山崎の事業所内にある社有社宅に入居し、転居する際に通勤時間を考慮して大山崎から遠方にならない事が条件の一つでした。現在は、伏見区に在住していますが、地域の中学校では1学年13クラスもあり、小学校も5クラスの人数規模となっています。その様な現状から、子どもを育てる環境を重視して居住地を選択するときに、大山崎に住めばきめ細かい教育を受けることが出来ることが判れば、そこでまた定住に繋げることでできる一つではないかと思う。そこをうまくアピールできれば、定住や転入につなげていけるのではないかと思います。

【座長】

そういう意味では48ページの視点2のところの知ってもらおうとかというのも広報的ではなくて、今みたいな価値づけが必要かと思います。●委員がおっしゃっていただいたような教育の現状みたいなものに今みたいな価値を付けるというか、現状に対して価値をつけたりすることによって「なるほど」と、そういう見方もあるのかとストーンと落ちれば、●委員がおっしゃっていただいたような選択されることになると、ただ単に交流人口を増やして、多くの人に来てもらって、知ってもらえば住んでもらえるというような時代でもないですから、今のようなあるものをきちんと言語化したりとか、価値付けしたりするプロ

セスがあって、多くの人たちに知ってもらったりとか、発信するということが多分、大事だと思います。お二人のやり取りをお聞きしているとそういうように思います。

そこに何かひと工夫とか、ひと手間とかが必要で、ネットの時代でも情報を垂れ流せばいい感じになっていますが、そうではないということだと思います。何かそこに味付けなり、きちんとした位置付けが必要なのかもしれません。

はい、どうぞ。

【委員】

今の議論で正に私も子育て世代としては、学校教育とか非常に気になる点だと思います。そういったこともしっかりと今、環境も整っているし、「いいですよ」ということを知ってもらうということが重要だと思います。課題3で「大山崎ぐらし」といったものを大体イメージをもっておられると思いますが、そこをしっかりと打ち出している、そこは子育て世代もそうですが、例えば高齢者の方も安心して住み続けられるまちですという伝わるでしょうし、働き盛りの人でしたら交通の便も実はすごくいいですということも大事ですし、この「大山崎ぐらし」というキーワードをもっと特長づけて行くことが、この大山崎町らしい戦略になっていくのではないかと思います。

【座長】

私も基本的に大賛成です。課題3はアメニティ不足から入ると少し違うのではという気がします。アメニティ不足という言葉もよくわからないというところもあって、結局こういう快適さみたいなもの、ここでいうと移動と買い物と通院みたいなもので利便性を高めましょうという話だけしかないわけです。

そうではなくて今のような「大山崎ぐらし」ということ自体がこういう側面もあって、こういうものは町民をあげて伸ばしていかなければいけない部分と、一方ここで書かれているような課題もある。

こういう課題も解決しつつ、こういうものも伸ばしていこうというような書き方というものもあるような気がします。どこでも言われていることは一緒なので、結局「大山崎ぐらし」が伝わらないというところが少しあって、これが他のまちでも書いてあっても、多くのまちでこれはそうだとなってしまうので、その辺で今、出たようなこととか、大山崎町として大事にしたいものを●委員がおっしゃったようにみんなで守るということは、それ自体が困難な時代に入ってきているとすると、少しそういうことを押し出しながらこういう価値をみんなで守り、創り上げていく。そういうこと自体が「大山崎ぐらし」の向上になるし、そういうものが「大山崎ぐらし」なんだということ。

「大山崎ぐらし」という言葉はキャッチーでいい言葉だと思います。その辺の中身が伝わるようなこととかつ、課題に引きつけて書くというところは●委員が言っていたような観点も含めて少し大事かなと思います。

その他、いかがでしょうか。

【委員】

今、アメニティの話だとか色々話がありましたが、保全中心、メンテナンス中心の動きだと、多分、町の立場に立ってみるとそうせざるを得ない状況があるのだらうと思います。色々やりたいことの希望があって夢があっていいのですが、やるためには資源が要る。町を強くしないといけません、その町を強くするための施策は何なのか、まずはそこがないといけないと思います。

私は兵庫県伊丹市から通っていますが、小さい町でも色々活気はあると思います。多分、税金があるからです。陸上自衛隊があり、飛行場があり、昔からの大企業があります。税金があるからこそできるというところもあります。それを放置してあれをしたい、これをしたいと言ったところで、その目当ては何ですか。補助金ですか、補助金はずっと続くのですかと、考えた時に言うのはいいですがなかなかうまくいかない。

まちの活性化は観光化ですかと最初に申しましたが、観光を中心に活性化するならばそこを狙うのは、当然人が来ていただく、人が来ていただいた時に、その人が大山崎町にある一定の時間、留まっていたらお金を落とすしていただかないといけない。1つはそのお金を落とすしていただくことが増えることによって、そこでの雇用を増やさないといけない。雇用を増やすことによって住民税なり、法人税なり、収入を増やさないといけない。そここのところのストーリーがないまま、いいのかなというところが非常に悶々としながら、仕事でそういったところもみているので、特にこの場合、46 ページの課題1に絡むと思いますが、その活性化とは何ですか。人ですか。活力というのは何だろうという活力の定義をはっきりさせないと、基礎をはっきりしないと、弱者ばかりが大きくなるという、ここ一週間の我が社の話になりかねないなという危惧はすごく感じております。

【座長】

人の捉え方によって様々な活力があるので、そこはあまり定義付けするのは難しいと思いますが、観光のようなところで、消費額のようなものがここでは横ばいでくらいしか書いていませんが、確かに前回 200 円程度しか使ってもらっていないという状況です。非常にショッキングな数字ではありましたが、ではどうやってというところはどれくらいまで高めていくかというところは必要なのかもしれません。

【委員】

駅から降りた人がどう動いているかということも必要です。どういように都合よく誘導するかという、マップも作っていないといけないのではないかと思います。

【座長】

ありがとうございました。多様な観点からご意見いただきました。もう少し時間をかけながらも議論をしていく時間はありますので、少し全体を通していただきながら、特に 46 ページ以降のところは前段のデータをどのように解釈していくか、将来展望をどう書くかというところが非常に重要になってきます。残りの調査結果等を踏まえて、49 ページのところへどう描くかということも次回以降で議論しなくてはなりませんのでぜひ、皆さん方ももう少しデータのところも目を通していただいて、最終的に 2060 年というところで今の状況の踏まえた上でどこを目指すのかということを決意せざるを得ません。その辺のところをぜひ、あと 1 ヶ月くらいありますので、そのところは皆さん方自身で考えて次回に臨んでいただければと思います。

今日のところの人口ビジョンに関する意見交換のところはこれで切らせていただきたいと思っています。たくさんのご意見ありがとうございました。

それでは資料 2 として配っていただいています、総合戦略の素案について事務局からご説明をいただいて、その後議論に進みたいと思います。ではよろしくお願い致します。

(2) 総合戦略 (素案) について

【事務局】

①大山崎町まち・ひと・しごと創生 総合戦略 (素案) について説明 (資料 2)

【座長】

ありがとうございます。今日は主に何を議論したらよろしいでしょうか。この中身で大きな方向性のところを議論すればいいのか、もう少し具体的な施策のところのアイデアをもっと出すという議論なのかどういふところですか。

【事務局】

先ほどの人口ビジョンのところでご意見いただいているわけですが、今回我々のほうで具体的な施策ということで、これらから考えられる内容として整理をさせていただきました。

そんな中で皆様方からこんな施策もあるのではないかというようなご意見があればと思っておりますので、一つ一つ基本目標ごとでのご議論をいただけたらと思っています。

【座長】

わかりました。少し議論するには難しいと思いますが、基本目標ごとに少し思われることがあればぜひ、言っていただきたいと思っています。今の話からいくと具体的な施策等をここにどう表記するかを含めて、逆に言えばどうにでもなるという段階でもありますし、基

本的な方向性、基本目標も、もう少しこうだろうということも含めて、幅広くご意見をいただいていいということです。

まずは基本目標ごとに議論をしてほしいということです。8ページ、9ページの大山崎町への新しい人の流れをつくり、活力の回復・向上をさせるというところに関して、どの観点からでも結構ですので、思われるところがあればぜひ、ご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

【委員】

目標の前に目的が要ると思います。総合戦略というからには目指す姿は何なのかというところでまずここで看板として示す必要があって、こういうようなところを目指しますというような比較、その次に視点1があってその視点1と基本目標がどのようにリンクしているのか、あまりマッチしてないですが、この視点1、視点2、視点3、視点4と8ページ以降は基本目標1や基本目標2とかあの辺がどうリンクするか。目標というからには目的があってその目的を達成するための目標であるべきなのです。目的なき目標はないはずなので、何のために何をするのかというところを明確にしないいけないと思います。

【座長】

そのところはいかがでしょうか。

【事務局】

目的につきましては、人口の減少に歯止めをかけるということです。

【委員】

それは大きな目標であって、大きな目標を達成するために、その中の小さな目標もあります。その小さい目標を達成すれば大きな目標も達成できるというプロセスを踏むと思いますので、基本目標の中で、1、2、3、4とあるとすれば、基本目標1で達成させるために活力を向上する、何のために。基本目標3だったら、生活を確保する、何のために。その達成が最終目標とどう絡むのかというところをクリアにしていけばピタッとパズルのピースがはまっていくのではないかと思います。

そこはやっていかないと有効にならないと思います。

【座長】

言葉の書きぶりとしてはどうするかということですが、前段の先ほどの人口ビジョンのようなものとか、そこで出た課題を述べてもらうというところで、多分そこは整理されて今でいう、6ページのところとか、人口ビジョンのところで示されたようなデータを含めて、大きなビジョンをそこには掲げて、そこに行くためにこうしましょうと、具体的には

人口というわかりやすい数値もそこにのりますと、大山崎町が目指すべきビジョン、目指すべき姿に対して基本目標として4つ掲げましょうということだと思います。

まずは全体像が少し資料としては不完全なので見えにくいかもしれませんが、この間の議論を下敷きにしていただいて、最終的にどう落とし込むかというところかだと思います。それぞれ皆さん方の解釈で結構ですので、ご意見いただければと思います。いかがでしょうか。

【委員】

具体的な施策であげられている部分が非常に抽象的で、「大山崎町に関わりある人への情報発信の強化」と書いてありますが、こういう書き方をするよりも、矮小な話になりますが、例えばホームページに加わるとか、そういった具体的な施策が必要だと思いますが、全体的にわかりにくくなっている。これから右に書いてある重要業績指標なんてまず出せないで、業績指標が出せるようにその辺を考え直されたらいいような気がします。

【座長】

例えば、情報発信の強化というところでK P Iのところをホームページを閲覧するとかが入るイメージですか。

今のご指摘からすると、今は大项目的に具体的な施策は挙がっていますが、ここに中項目なりが入って行って、それぞれの重要業績指標が出てくるという感じで捉えたらいいですか。そういう意味ではこれから本当の具体的な施策と書いてもらっています、今みたいな細かいホームページでこうだみたいなことが入るのですね。それを総合してこの項目の情報発信というものが強化しているというように表現しているという解釈でいいですか。

【事務局】

そうです。

【座長】

はい、わかりました。だとするとどうでしょう。

【委員】

そういうものをこれから考えていきますということなのか。

【座長】

私も議論の仕方が難しいと思ったのは、そこが見えないとさっきのご指摘と同じで、少し議論がしづらい。なかなかその連携性みたいなものがないとなかなか議論しづらいというところはあります。

【委員】

例えばこういうのを組み立てていく時に、あるメインメンバーが集まって議論をして、それをまとめた結果がこれだというのはまあまあわかりますが、そういったものがもしあるのであれば、具体的なイメージはどう持たれているかとかをもう少し知りたいとは思いますが。

【座長】

今の項目というのはそういうプロセスを踏まえてという感じですか。

【事務局】

逆に、こういう大きなものがまとまった段階で庁内的にも所管を集めて具体的に予算化をしていきますので、そういったところで落とし込みをしていきたいと思っています。

【事務局】

実は今、本町の上位計画の総合計画を作成しております。従来だとかこういった総合計画におきまして、ある程度施策体系を明確にしてきたことがありますが、今回我々のところでは方向性なり、理念なりを中心として事細かに詳細なところを載せておりませんので、そういった観点も含めて今回戦略のほうでもあまり具体的な小さな事業については今回、具体的にはしていないというところ です。

イメージとしては先ほどの情報発信のところという、ホームページのあり方であるとか、特に、ここでは町のほうにお仕事で来ていただいている皆さん方が沢山おられます。そういったところへの投げかけとしての情報の出し方が、今まで不十分であったのではないかと思います。

とりわけ町内で行事をする時に町内の住民さんと在勤者を対象にして町内施設もそうですし、事業についてもご参画いただけるようにはしていますが、なかなかそういったところが十分周知も出来ておりませんし、そんな中では我々のほうから出していく情報の出し方をもっともっと考えて強化していきたいと考えております。

例えば、こちらのページの③のところにスポーツによる交流の促進とあります。これは具体的にどんなことができるかというのですが、今年の7月24日に日本体育大学と本町が提携させていただきました。その中で1つの事例として考えられることをご説明させていただきますと、大山崎町の財産である天王山があります。天王山を使ったスポーツの交流、具体的に何があるかというと、天王山にはオリエンテーリングのためのコースがあります。オリエンテーリングは最近また、若い人たちに少しずつブームになってきています。そういったものをスポーツの大学と連携をしながら誘致をすることもできます。天王山は駅から降りてすぐのところにありますので、事例としてはそういう取り組みもイメージとしては持っております。

【委員】

全体的に誰がするのかというところがあまり見えてこなくて、町役場がするのか、町民がするのか、それとも関わっている人にやってもらうのかとか、その主体が見えてきていないと思います。

今のお話をお聞きすると、町が色々考えてやっていきますというイメージがありますが、予算の限りもありますのですべては不可能かと思えます。

【事務局】

そうですね。戦略の仕事としては、町が旗を振って進めていくということが基本です。ただ、その時にやっていただく主体となるのが状況によったら行政が主体の場合もありますし、住民が主体でお願いをすることもあります。それぞれの具体的な事業によっては変わってくると思います。

【委員】

そうすると、この資料は理念的な資料なのか、実行計画に近いものをイメージされているのか、どちらに軸足を置いているのかによって、どこまで突っ込んでいいのかが変わってくると思いますが、どちらでしょうか。

【事務局】

見ていただいている通り、基本的には理念的なものです。

【委員】

先ほどあったように細かいところは基本目標ごとに、時系列のチャートとか、いつ誰がいつまで実施するとか、そういうのを含めて個別具体的に作られるということですね。

【事務局】

そうです。本戦略がまとまった段階で、次のアクションプランという具体的な事業展開については、これをベースに組み込んでいきます。

先日、国のシンポジウムに参加させていただきましたが、内閣府からの情報によると平成 28 年度予算では 1080 億円の予算化を交付金事業としてみている。ただし、これらについても 2 分の 1 負担というように聞いておりますので、事業費そのもの全てを今回の交付金で賄えるものではありません。我々としてはアクションプランをつくる段階では、そういう財源も含めて精査をして進めていくということになります。

【座長】

ありがとうございます。フレームは現時点の確認ができればと思いますし、先ほどの人

ロビジョンのところで議論したようなことも、例えばこの活力を回復・向上させるというところで行くと、入込客数もそうですが、消費額みたいなものもどれくらいに設定するかというところも、先ほどの議論をここに落とし込むならば、そういうものも必要でしょう。全体を通じてどういう意味を持つかということも、先ほどおっしゃっていただいたようにそれが雇用に結びつくとか、色々なこともあるでしょうから、その客数が増えればいいのかというところの質、意味の問題もあります。

ただ単にお金を落とさずにゴミをまき散らしていく人が増えるということが多分、ハッピーなことではなくて、「どういう観光客が」というものを基本目標の指標のところに入れていくかということも必要かもしれません。

そういう観点で少し大きな議論になりますが、それぞれの項目について、現時点で感じられることを少しじっくりとした意見交換になると思いますが、それぞれの項目でいただければと思います。基本目標1のところはいかがでしょうか。

【委員】

例えば「顔が見える」というのがキーワードで色々な計画とか出すことが多いですが、これでいくとタイトルには大山崎町がありますが、例えば観光資源とか、今説明を聞いている天王山という言葉が入っただけで、大山崎町だからそういう資源が具体的にありますが、そういう形であまりにも縛っていくと後々やりにくいでしょうか。大山崎町にある国宝待庵は掘り起こすまでもなく、大山崎町の財産ですし、そういうのを挙げて大山崎町の顔をちりばめていけるようなことができるのではないかと思います。現状では顔が見えない。

【座長】

先程の観光に関しても、もう少し戦略的にここに書いたほうがいいのではないかと思います。具体的な施策よりもその上のところにこういうものを生かしてこういうような展開をしていかないと、具体的な戦略的位置付けみたいなものが結局さらっと流れてしまう。どこのまちでも書いているという話になってしまうので、書きぶりとしては大山崎町のところに引き付けた書き方が必要なのではないかと思います。

他にいかがでしょうか。

【委員】

大山崎町は、一戸建てを買うにあたって長岡京市と比べれば同じ坪数であれば安いです。結婚されて家を探す時に乙訓エリアというのは、京都、大阪の通勤圏内で非常に立地がよい。

一方、二市一町の乙訓エリアにおいて大山崎町は特急が止まらないという不利がある。住宅を探すにあたって、その点で長岡京市、向日市と比べれば不便である。ただし、広い家を買う、車を2台止められる家を買うとなると、何かを削って選ぶとなった時に先ほど

の自然環境も含めた利点はあるわけなので、大きい家を欲しいという30代前後の方というのは、大山崎町に居住しようかという方は比較的多いです。

この人口ビジョンの中で、先ほど1万5,000人から1万3,000人に下がるという予想の中でいくと、若い世代の居住者数を増やすとなれば大きい家を大山崎町であれば少し不便だけど手頃な値段。いわゆるサラリーマンがローンを組んで買える値段で手に入れられるというのが大山崎町の私のイメージです。

先ほどの円明寺が丘団地はかなり老朽化していますが、あそこの整備のやり方を考えれば西山天王山駅に非常に近いわけで、ここを町として何とかできないのかと思います。そうしたらまだまだ若い世代の人が住むと思われるエリアであるわけです。

私は、大山崎町はそういう居住ということで、人口を確保すべきではないかと思っています。観光もそうですが、これは来ていただいて色々な事業を興した後に効果として出てくることなので、即効性という点からいくと町ができることという土地の整備もしくは、そういう建築基準の見直しとかができれば、まだまだ住まれる方が多いかなという気がしています。

【座長】

ありがとうございます。そういう意味では①のところはそういうポテンシャルがあるということだと思いますし、そこをどのような具体的な手立てが考えられるかということはある意味、市場的な価値からするとそういうように判断されるところでいくと、そのポテンシャルを生かして定住に繋げていく。ある意味どこでもいい人たちがどう大山崎町を選ぶかということだと思います。乙訓エリアだったらどこに住んでもいいという人が、色々な条件の中で「じゃあ」と選ばれるというような特性の町だと思いますから、定住というところでの情報発信を強化する。具体的なハード面で、円明寺が丘団地の取り扱いが難しいとは思いますが、そういうご意見が少し参考になるかなと思います。ありがとうございます。

他、いかがでしょうか。

【委員】

大山崎町は非常に観光資源が豊富で、ただそれぞれが点になっていて線に繋がっていない、あるいは面になってないという、非常に勿体ない状況だと思います。

大山崎山荘美術館のこともよく挙げてもらっていますが、勿論、待庵だとか天王山とか、それぞれ持っているキャラクター、資質が違いますがバラバラで繋がらない。それぞれがそれぞれの別々の発信をしている。

例えば狭い世界の話ですが、観光地として廃れていたところが、何とかロードとか、何とかアベニューとか、そういうエリアを持つことによって、その土地の特産品も含めて、色々なものを発信することによって、観光客を集めて成功した例は色々あるようです。

それをそのまま大山崎町につくるかどうかは別にして、そういう情報を総合的に発信する装置が機能していないと、大山崎町がこれだけたくさんの観光資源を持っていて、非常に勿体ないとか、宝の持ち腐れをしているような気がします。

大山崎町、京都府も含めて発信装置みたいなものを、何とかロードとか何とかアベニューをつくるのがいいのか、別のソフト、ハードをつくっていくべきなのか、その辺は勿論、予算との兼ね合いもあると思いますが、せっかくここには素晴らしい世界に誇るべき資産があるにも関わらず連携せず、バラバラでは勿体ない。その辺りを大山崎町、あるいは京都府、あるいは国かもしれませんが、旗振りをして発信装置というのを、それがいいのかはわかりませんが、一つの方向性ではないか思います。私は大山崎町で働いてまだ1年ですが、他地区から見ていて非常に勿体ないという気がしております。

【座長】

今の②のところでは点から面へというところで外から見るとそういうように見えるということで、その辺の意識的な書きぶりとか、具体的な施策があってもいいかなと思います。

【委員】

大山崎には歴史ウォークのコースがあり、来月そのコースを連合地協構成組合の家族を集め歴史ウォークを行います。複数の史跡を線で結んだコースであり、大山崎の歴史を歩いて回るコースが複数ありました。大山崎山荘美術館が休館だったから落ち込んだとの話であったが、点ですると観光客が減るが線でやることによって、ある一定の歯止めになると思うので、どこが主体になるのか判りませんが、既存のコースをアピールした方が良いと思います。一から作るとなるとパワーもいるし大変なので、関係団体や関連施設と調整し生かすという様な視点もいるのではないかと思います。

【座長】

他、いかがでしょうか。

【委員】

まず、基本目標のところは観光収入と観光に関わる事業者の数というのをひとつ入れてはどうだろうかと思います。観光者をどう定義するか難しいですが、滞在時間の向上を入れてはどうなのかなと、それが人の流れをつくるということにも絡むでしょうし、活力をどう定義するかですが、税収も大事だと思いますので、それを入れたらどうかと思います。②のところですが、観光資源の促進のところはそれに関わる収容者の増加というところに繋げていけばいいかなと思います。③のところはどのように言えばいいか非常にわかりませんが、ぼつと出ている感じがします。

【座長】

③のところは、座りが悪いなという気がします。なんでスポーツだけという気がします。

【事務局】

昨今、スポーツ観光という言葉があります。

【座長】

そういうのが戦略的に見えてこないです。昨今、そういう言葉もありますが、ここでいうと既存のスポーツイベントを充実させて新しいスポーツイベントを開催してスポーツ交流して、その次にどういう戦略があるのかということとか、これだと全部のイベントがそうになっていくので、「イベントをやるのですね」という話になってしまいます。これは先ほどのような指摘と繋がりますが。

文化のようなどころも当然、文化的なものもいっぱいあるわけですから、文化による交流の促進みたいな言い方も言えるわけですので、その辺の今、見えているからとりあえずあげておこうという感じが満載なので、その辺の書きぶりの工夫とか、他のもう少し使えるものとか、こういうところに位置付けておいたほうがいいもの、逆に言えば国の予算をどう獲得するかという話ですから、そういうものを引き伸ばすために、先ほどの面の話でいくと、この文化をおさえておいたほうがいいのかという戦略もあるでしょうし、その辺をもう少し幅広く意識しておいたほうがいいのかもかもしれません。

【委員】

阪急電鉄の沿線でも、各市町でどことも観光という施策をあげられています。どことも自分のところは資源がたくさんある、世界に誇れるものがあるとおっしゃいます。確かにそういうものはありますが、その打ち出し方ができていない。非常に競合が多い中で、皆が来てもらわないといけないので、非常にハードルが高くなってきているという印象があります。乗り遅れたらだめなのは確かにそうだと思いますし、観光というものを今のうちに見直して、こういったものをしていきたいということは必要だと思います。

そういうことからすると、大山崎町で頑張っていくにしても、もう少し連携というものを中心に打ち出してはどうかと思います。

例えば、乙訓地域全体でこの地域を盛り上げる。京都市でさえ西京区が観光に弱いのでそこに力を入れるとかおしゃっているので、さっきの「点から線へ」という話をもう少し観点を広げて、隣接の市等と連携するというを中心に打ち出しすほうがよいと思います。

【委員】

連合乙訓の関係で長岡京市の講義に出られている方がいて、同じようなことを言ってい

ました。どうしてもそういう話題になってしまって、長岡京市のほうも乙訓でという話をされているようです。

【委員】

向日市でも今、歴史まちづくりということで、国の交付金をもらいながらやろうとしています。それぞれでやることも大事ですが、連携してもっとこの地域に来てもらうというところでやったほうがいいのかなと思います。

【座長】

そういう意味では②のところの広域観光というのはこの間の広域連携みたいな話で、特に乙訓との連携とか県境を越えた大阪府の島本町とかの連携みたいな議論もありました。

そのところの具体的な書きぶりにすると、今みたいな話がもう少し立体的に見えるので、例えば②のあとの文章のところにももう少し具体的に書いてもらおうと、●委員の言ったようなエッセンスもちゃんと織り込めると思いますので、そのところはもう少し立体化しましょう。

では時間の関係もありますので、どの部分でも結構ですので、基本目標2以降のところも、今のような議論で結構ですので、視点とか、こういう観点も非常に大事じゃないかということも含めてご自由にご発言をいただければと思います。その時にページ数だけ言っただけだと非常に助かります。

【委員】

この戦略を立てる上で、定住人口をまず増やすというのが第一だと思います。それを踏まえたうえで、交流人口にも視点を置くという事だと思います。観光の話題になると、どうしても交流人口を増やすことだけの議論になってしまうので、そこにあまり引っ張られないようにしたいと思います。

定住人口を増やすなり、定着していただくという意味でいけば、やっぱり「大山崎ぐらし」とか、生活のしやすさとか、子育てのしやすさとか、そういうようなのがあって、その次に観光とかそういうものが出てくるのかなと思います。

観光を否定するわけではないです。天王山とかは、逆にアメニティの良さとか、定住化にも直接関わってくることだと思いますが、順番をまずどう訴えかけていくか、基本目標1にそういう交流人口的なことが中心になってきているというのはどうなのかなと思います。最終的には、全部議論した上で、順番を考えていただいたらいいのかなと思っています。

それと、大山崎町の素晴らしさを訴える場合、総花的ではなくて、「大山崎ぐらし」というのはこうですと提示して、その価値観に合った方に来ていただいたらと思います。大山崎町としてこういうのを提案します、それに来て下さいと。

自分を振り返ると、子どもが小さい時、走り回りたい時代というのは、マンションよりは庭付きのほうがよかったなど。子どもが大きくなったら逆にマンションの方が良いかなと思っています。そういう生活スタイルを、大山崎町だったらこういうように実現できると提示することで全国から来ていただく。

それと、社会基盤が非常に整ってきているところですので、ここから日本海まで1時間で行けるわけです。ライフスタイルで言えば、土日は北部のほうへ行き、平日はここで生活をしていくとか、場合によってはできるわけです。そういう選択の余地もある地域ですので、何かよそとは違うことを提案できるような内容になっていったらいいのかなと思います。

【座長】

ありがとうございます。非常に共感できました。他、いかがでしょうか。

【委員】

今回の総合戦略が人口問題と密着して策定することを求められているから非常にもの言いにくくなっている感じがします。本来、大山崎町は過去何年かこういう課題に取り組んできたのですが、なかなか実績が上がらない、財政規模が約50億円程度ということもありますし、ただその中で生活のほうの安心、安全、あるいは教育といったところは結構いいレベルで維持できてきたが、都市間競争に耐えていくために、今度は新しい魅力付けをするという点では劣ってきているという思いから、私は活力の回復という言葉としてはいいのではないかと言ったのです。

ただ、その言葉が例えば基本目標1のところ、新しい人の流れをつくり、活力を回復・向上させると出てくると、これだけではこの言葉の負担が重すぎるような気がします。新しい人の流れだけで活力が回復するというのは楽観的すぎると思うのですが一応人口問題に密着してものを言わなければいけないので、その辺が悩みかと思います。

もう1つは、全体を見ていて先ほども表現が「具体的な施策」といいながら極めて抽象的ではないかというご意見がありましたが、全体を眺めてこれは町の腰が相当引けているのではないかという印象を持ちました。事情として今後の手続きの問題があるということ、それはひとつわかりました。やっぱり交付金と言いながら、裏負担が50%、半分は町の負担というのは今の町の財政状況では相当問題で、本当に具体的なことがここに書けないのかという気がします。

ただ、この基本的方向の中で、こっちの方向へ向かって動きますと、例えば基本構想はあるけど、それを次の段階まで進めますというレベルまでは書いてほしいという気はします。例えば世界的に有名な大山崎山荘美術館がありながら、その情報が町を素通りしてしまっているとか、大山崎町歴史資料館もあって、どちらも大山崎町の身の丈を越えた立派な施設だと思いますが、ああいうものの活動を結びつけて歴史とアートのまちづくりに進

めますという、あるいはそういう検討をしますというくらいまでは書いてもいいのではないかと気がします。

マスタープランのほうでは、色々な拠点をつくろうということになっていて、駅前が観光拠点、生活拠点にしましょうと。ところがこのマスタープランをつくって、イメージだけで終わっていて一向に実現化に向かって進んでいない。この際、国が交付金をあげると言っているのだから、少しこの辺を前へ一歩進めますという、もう少し具体化した計画をつくりますくらいのところまでは、踏み込んでもいいのではないかと気がします。

お金の問題は深刻な問題ですから、民間の活力をどう利用するかという視点を入れながら、そういう方向へ一歩進めるような書き方があっていいのではないかと気がします。

【座長】

そういう意味では私たちの知らないことを、大山崎町の皆さんがやってきたことを引き出したり、きちんと認め合ったりするようなことを、そして考えてきたけどまだやれてないことを、こういうところでドライブをかけていくきっかけにするというのは、地方創生的な文脈でいくと、かなり大事なことも知れません。

どこの町でもやっていることを新たにやらなければいけないということではなくて、「自分たちは考えてきたのだから、これを機にやるぞ」ということだと思います。そういうのを整理されてこういう中に入れ込めると、その町の誇りに繋がっていく文脈にはなるかと思えます。

さっきのスポーツ等は象徴的ですが、今みたいな文脈で、色々なものをまちづくりとしてどのように展開をしていくのか、それが結果的に魅力的なまちづくりに繋がるし、定住人口にも繋がるというような立て付けもひとつあるような気はします。

他、いかがでしょうか。

【委員】

10 ページの基本的方向の中にある3つ目の丸に、学校教育等の充実ということで固めてありますが、例えば、一人ひとりのニーズに合ったきめ細かな教育ができていたり、魅力や特色を一言入れることによってファミリー層はぐっと引き付けられると思えます。

通り一片の書き方ではなく、現状を踏まえてプラス思考で考えた時には本当にいい特色ですのでぜひ、そういう言葉もいれていただきたいと思えます。

【座長】

この総合戦略をどう位置付けるかが難しいです。町としてこれを町民の皆さんが共有するのですか。伝え方として今みたいなことまであったら、一つ一つ入れていこうとするとかなりの分量になって、総合計画っぽくなります。そこら辺を総合計画できちんとうたって、そういう価値を表現していく部分と、こういう総合戦略のようなものをどのように併

存させるかというのは技術的なことかものかも知れません。地方創生という国からの話ですが、その辺が自分たちの町でどのように整理するかということはあるかもしれませんし、今のような価値をどんどんこの中に入れ込んでいくべきだと思います。どこまでどうするかということも、現実的にはあると思います。

【委員】

先ほど●委員もおっしゃいましたが、何回も繰り返すことになって申し訳ないですが、やっぱり財政難です。基本的に儲かる大山崎町づくりというところを1つに掲げたらどうかと思います。今もプランを作成しても、この財源は来年からはないわけです。国から来る財源は続かないです。

【事務局】

今年度は、ほぼ事業の10分の10でしたが、来年度以降は2分の1です。

【委員】

続くかもしくは減らされていくということで、1回計画を立てたらそこから先は町が責任を持たないといけないし、国からのお金は増えることはないわけで、自分のところでお金を回していかないといけない。先ほどおっしゃったようにお金がなかったら何もできない。そうなる基本目標1、2、3、4があるなかで、最初にしないといけないのは何なのか。2から始まって、2、4、1、3くらいではないかという感じがします。

まずは何をやるにしても自分が強くなければできません。そうした時にロードマップが要ります。来年先にどういうステップで何をを目指すのか、ロードマップがないままあれこれ言っても何もならないという気がしてなりません。それをつくっていかないと、今年とりあえず補助金をもらうがための動きになって10年後、もっと貧乏な町に転落してしまうのではないかと思います。

定住者が増えるのはいいですが、定住者が必要ではなくて町としては納税者が必要だと思います。納税者がいないとサービスも提供できません。その納税者が若者か、高齢者か書いてなくて、ここにおられるような年代の方も必要です。若い方がいてもらったら、若い方はそこに30年くらいいていただいて、お金がかかる時期もあれば、インプットを出してから払っていただく額も多い、ライフプランの観点で多様な世代があります。そういったところをどうやって考えていくのかをしないと、若い人だけではまちはもっと貧乏になる。やはりロードマップが必要ではないかと思います。べたなところを最初に組んだ上で最後の化粧をどうするかというようにしないといけないと思います。

【座長】

理屈はわかりますが、そのターゲットをそんなに細かくすると、現実的にかなり難し

いです。田舎だったら結構できます。今は田舎ではそういう組み立て方をして、これからの世代の人を1人持ってくればいいのかという議論があります。

【委員】

わかってはいますが、きれいなことを言うのと、「はい」というのは簡単です。それを言ってしまうと、責任ばかりが増えるので、町の方は大変だと心配しています。

【座長】

このレベルだったら大丈夫です。もっと挑戦的なことを書いていたら別ですが。現実的に言うと、やらなければいけないというか、こういうものがなくても本来進めていくことを可視化させるとか、●委員がおっしゃったように、今まで議論してきたコンパクトシティとしてのポテンシャルみたいなものが整理されてきているわけです。そういうものをもっとここでドライブをかけるという発想をもって、まちづくりをと言うことは非常にわかりやすいですし、今おっしゃっていただいたことも、そういうまちの中でどういうセグメントがどういう形で必要なのかということは見えてくると思います。

人口から入るとかなりいびつな議論になってしまうので、どちらかというとうるまのまちづくりをしていくか、そこにどう誇りを持ってどう取り組みをするかを議論する。後の話として人口の話が付いてくるという、本来はそういう議論だと思います。

人口から入るという議論自体がそもそも国の要請だとしても、地域としてはしんどいというのはこの間の議論だと思います。

【委員】

大山崎町は商売の色を感じません。我々、大山崎町で操業させていただいていますが、日曜日とか仕方なしに会社に来たりすることがあって、JR山崎駅から歩いてきたりしますが、ひっそりとしています。商売の活性化をもっとしていかないといけないと思います。

色々な規制があるかわかりませんが、規制を緩くするとか、動きやすい環境をつくってあげるとか、そういうことをしていかないと結局、回らないと思います。

【座長】

ありがとうございます。●委員、今の話はどうか。

【委員】

はじめは、観光についての議論が盛んでした。不十分ながらも、やっていることがいくつもあります。例えば、二市一町の連携です。モデルコースの紹介もありますし、乙訓全体を観光地として捉えた観光パンフレットの作成がなされていますし、京都駅の駅にはずっと配架されている状態です。では大山崎町へ来ようという人が、大山崎町のホームページを見

て容易にアクセスできるかと言うと、申し訳ありませんが一旦、商工会にアクセスいただいて、商工会の観光のページに行っていたか見ることができないような状態ではあります。そういったことをやってきていますし、今もまだ継続してやり続けています。

今は商売人の少ない町もあり、今は約 300 の商業事業者がある中で、約 200 事業所の会員を有する商工会であります。組織率は6割を超えているくらいで、商工会としてはまだ高い組織率のほうではないかと思っていますが、現実、会員の増減が毎年起こります。

そのうちの減っていく原因が廃業です。個人商店が息子も娘も後押しをしないからです。しないことによって結局、後継者がいないので廃業していく。とは言え、新しく会員事業所が発生するのも勿論あります。新しく会員事業所になった人の様子を聞くと、阪急に乘っていて大山崎町が一番いいと思ったから、大山崎町にしたという人もいますので、実は不思議なことにあるのです。

自分たちはずっと中にいるので、予算をどっぷり使っているのだからわからないのですが、全く違う住環境のところからお越しになった方にとっては一面、とても魅力的な地域であるそうです。翌々、インタビューをさせていただくと、どの部分がどうとわかるかもしれないませんが、ここはいいと思ったからここにしたいという事業者が少なくともこの1年以内で2社ありますから、そういう側面も持った地域です。

本年度から平成31年度の5カ年であります。本年度でこんな話をしている状態ですから、ほとんど何もしないのと同じだから、結局4年で何かをする。恐らくその平成31年度が終わった時点で、我々自身もあるいは私がしなくても、町自身はその結果を評価して、あるいは国にも評価を受けて、次なる5年間がどう対処されるかという議論になるだろうと予測しています。このあとの4年間でするには、大体4つの目標を掲げるのは多すぎる。1つがどうしても絞れないなら2つくらいにしておく。1つを深めていって4年間やったら、他に書いた目標にも波及するくらいのものであるという目標を1つ選んでやるというのがここでの意見です。

とても興味を持って進めたいと思ったのは、西山天王山駅付近の円明寺が丘団地を何とかしないといけないうことは魅力的です。やりたいです。私はずっと前から考えているし、別のところではその話はしていますが、4年というスパンでは、成果の出るところまではできない心苦しさがありません。以上です。

【座長】

そういう意味では私も同じ感想を持ちましたが、予算がつくからこういうことをやってこなしましょうという時代は終わっているのだから、さっきから戦略と言っているのは、これをやったらこうなるくらいの見通しと、どういう姿にしていくかという現実的な待ったなし感のようなところが、限られた財源の中でどうやるかというところでどうメリハリとか、重点的にここからやっぱりやっていこうというプライオリティが見えるということが非常に大事かもしれません。

さっき並べ方の提案もありましたが、少し絞るという方法もあるかもしれませんし、網羅的でなくてもいいと思います。この部分は特化してこうするという立て付けでもいいのかもしれませんが、国がフレームを出してきているものもありますので、そこは濃淡でいくしかないというところも現実的にあるかもしれません。

その辺のところのいただいたご意見を元に少し整理をしていただいて、具体的にはまっていけないものがあるので見えづらいというところと、当たり前なことはあまり書かなくてもいいのかもしれませんし、少し安っぽく見えてしまいます。

何をやるかもぼけてしまうので、この地方創生のお金でこれだけはやるというようなこと覚悟を持ってやるということが見えることが非常に大事かもしれません。円明寺が丘団地の話をどういうようにここの中で表現するかというのは難しいかもしれませんが、そういう頭出しで、ここまでの合意形成を5年間でやろうとか、そういうことはあってもいいかもしれません。これは色々なところで円明寺が丘団地の話は出てくるので、そこをどう生かすかとか、そこに今、住んでおられる方々がどういうようなことを望んでおられるかということも含めて、それはそれでまちにとっては大きな資源でもあり課題です。その辺も少し整理ができればと思っています。他、いかがでしょうか。

ざっくりした今のような意見を元に再編成はしてもらいます。どこまでいってもしんどい話ですが、国が提示してきているフレームなので、どこの市町村もそうですが、これを逆手にとってどうするかということや少ししたたかに考える戦略が必要なもので、先ほど都市計画としてずっと考えて来られたようなことをいかにこういうところに落とし込んでしたたかにやるかということが非常に大事だと思います。

他、ご意見いかがですか。

【委員】

他の市や町では、ニュータウンは複数あって、それぞれバランスをとらないといけないというような、そういう難しさがあると思いますが、大山崎町は幸いなことにそうではなくニュータウンはひとつです。そこに集中してできる環境があると思うので、ぜひ取り組んでいただいて、よそへのモデルケースのようなものを作っていただけたらと思いますので、よろしくお願い致します。

【座長】

本当はもっと早い時期に仕組みづくりが行われれば、もう少し余裕があったかもしれません。ただ、指をくわえておだけという話でもないような気がします。そこはここに入るかどうかを別としても、まちにとっては非常に大きい課題です。考え続けなければいけない問題です。他、いかがでしょうか。

私の進行がもたもたしてしまいましたが、特に後半のところは皆さん方にとって議論しづらかったかもしれません。中途の少し方向感が見えない中でということでしたので、い

いただいた意見を事務局で整理をしていただいて、次回以降の議論の修復に繋げていただきたいと思います。

事務局のほうから何かあれば、ご報告等その他のところでよろしくお願い致します。

(3) その他

【事務局】

それでは、私のほうから1点だけご報告させていただきます。すでに皆様方のほうに第2回の会議録を今回、一緒に配布させていただきました。すでにご承認のご返事をいただいている委員さんもおられますが、まだの委員さんにつきましては、配布させていただいております封筒により、返送をしていただきますようお願い致します。以上です。

【座長】

ありがとうございます。その他、皆様方から何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

本当にお忙しい中、貴重なお時間をありがとうございました。特に無いようでしたら以上で本日の議事を終わらせていただいて、事務局のほうへお返ししたいと思います。

ありがとうございました。

3. 閉会

【事務局】

それでは皆様方、ありがとうございました。非常に多くの意見をいただきましてありがとうございました。次回までには我々としてもしっかり整理して、皆様方の議論に供するような資料をまた改めてご提示をさせていただきたいと思います。

次回ですが、あらかじめお示しさせていただいています通り、11月26日木曜日に、本日と同じ時刻の14時半からということで、4回目をさせていただきたいと思いますので、ご予定のほうをよろしくお願い致します。

それでは本日の会議はこれにて終了させていただきます。ありがとうございました。

以上